

SHIRAKOBATO

# しらこぼ

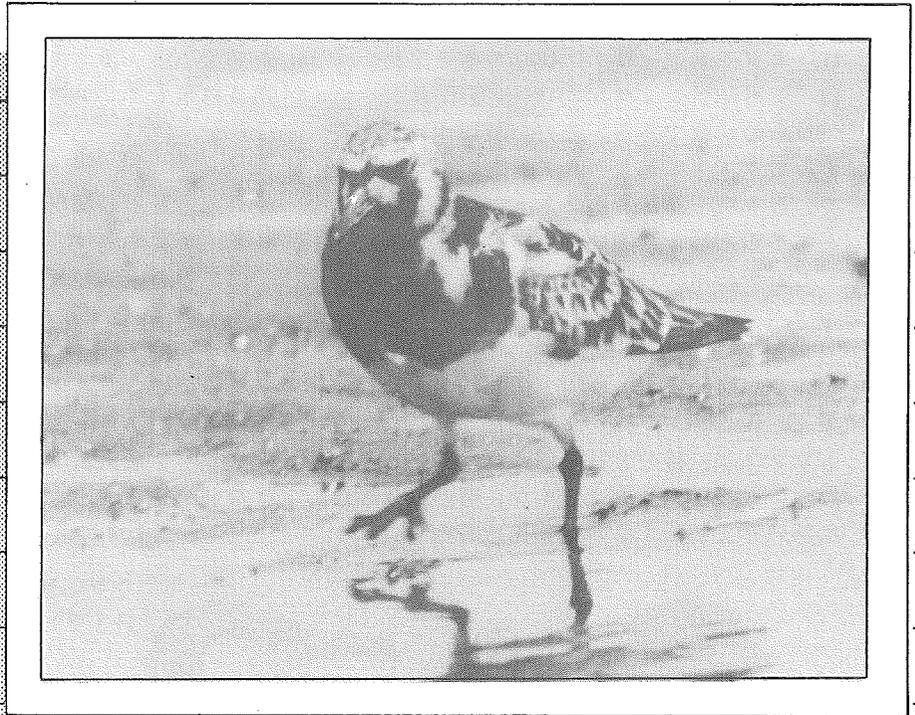


1987.

9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.40

日本野鳥の会 埼玉県支部

# WANTED!!

下記の13種の鳥たちを指名手配致します。そのものたちは、埼玉県に潜伏中、あるいは潜伏したことがあると思われます。なのに、私たち会員へその姿を見せない！当然罪状は不敬罪。賞金は出ませんが、確認された方は、自分の名が新聞へあるいは各種文献に載る名誉があたえられます。

現在埼玉県では、江戸時代まで記録をさかのぼると、286種の野鳥が記録されている。しかし、今まで目撃のみでリストに加えられていない種や、近県では観察されている種など、これから埼玉県内で記録されそうな種を、独断であげてみた。

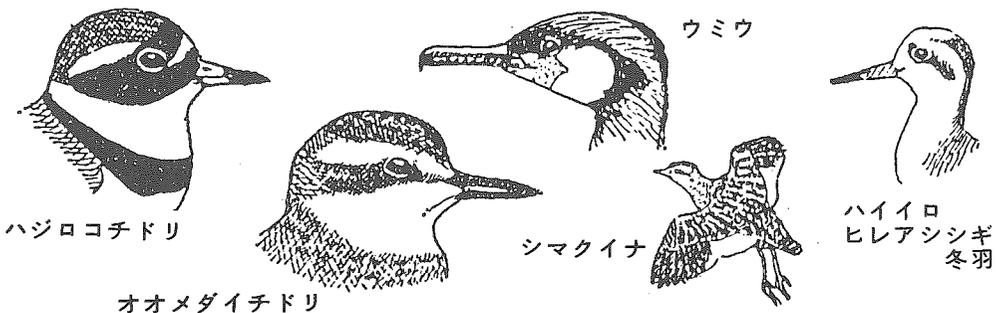
1. ウミウ
2. シマクイナ
3. ハジロコチドリ
4. オオメダイチドリ
5. オオチドリ
6. コバシチドリ
7. ハリオシギ
8. ハイロヒレアシギ
9. オオセグロカモメ
10. カモメ
11. エゾセンニュウ
12. コホオアカ
13. シベリアジュリン

以上の13種である。この13種の中には目撃のみでリストに加えられていない種もあるので、近々埼玉県産鳥類リストの中に加わる種があることは、間違いないと考えられる。

これからは、13種の説明をしよう。

## 1. ウミウ

カワウは、荒川・中川・江戸川などの河川で見られるが、ウミウの記録はない。ウミウとカワウは、体の上面の色や飛んでいる時の翼の位置などで識別できるが、嘴の根元の黄色部の形で判断するのが確実であろう。



## 2. シマクイナ

冬鳥として渡来しているといわれている。水田や湿地にいて、12.5 cm と小さい(セッカとほぼ同じ)ので、見ることは難しい。しかし、埼玉県に来ていた可能性は大である。

## 3. ハジロコチドリ

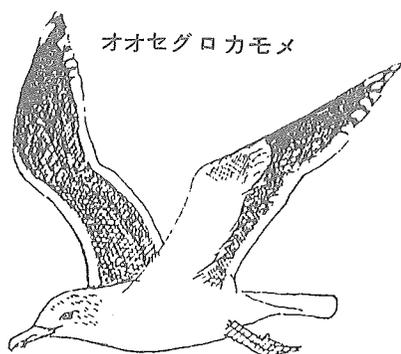
コチドリより大きく、イカルチドリより少し小さい。夏羽は嘴の基部が橙色になるので問題ないが、冬羽では嘴が黒くなるので注意を要する。一番の決め手は、飛んだ時に翼に出る白帯(イソシギのような感じ)。

## 4. オオメダイチドリ

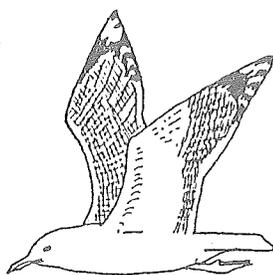
以前、荒川の河川敷で目撃されたという。メダイチドリとは、夏羽は問題ないが、冬羽では足の色、嘴の長さで識別できる。

## 5. オオチドリ 6. コバシチドリ

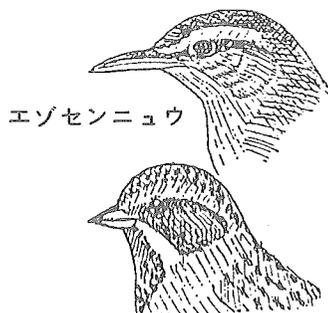
この2種は、ムナグロの群れの中で見られる可能性がある。これからはムナグロの群れをじっくり観察してみよう。きっと、思いがけない発見が……。



オオセグロカモメ



カモメ



エゾセンニュウ

シベリアジュリン冬羽

( 図・日本野鳥の会『野鳥識別ハンドブック』より )

## 7. ハリオシギ

休耕田での目撃例はある。しかし、他のタンギ属と見分けるのは難しい。尾羽の枚数、外側の尾羽の形、鳴き声などで見分けられるとあるが、識別の困難な種である。あなたの日によって識別が可能になるかも。

## 8. ハイロヒレアシシギ

荒川の河川敷での目撃はある。アカエリヒレアシシギとは、嘴の太さや体色で識別できる。渡りの時に注意して観察してみよう。

## 9. オオセグロカモメ

東京都の浮間公園での観察例があるので、埼玉県で記録されるのは、そう難しいことではないと思われる。

## 10. カモメ

荒川での目撃はある。冬カモメの群れを注意して観察してみよう。ユリカモメの群れの中に混っているかもしれない。

## 11. エゾセンニュウ

渡りの時期に見られる可能性はあるが、しげみの中にいるので、なかなか見ることは難しい。しかし、鳴き声に特徴があるので声を手がかりにするのがよいであろう。

## 12. コホオアカ

目撃例が何回かあるので、渡りのころなどに埼玉県に時々来るのかもしれない。12.5 cm とホオジロの仲間では一番小さい。

## 13. シベリアジュリン

目撃例があるので、冬にアシ原をじっくりさがせば、見られるのかもしれない。オオジュリンとは、小雨覆の色や体色などで識別できるとあるが、十分な注意を必要とする。

独断による埼玉県で見られそうな種はいかがでしたか。本当はもう少し載せたかったのですが、あれもこれもとなると收拾がつかなくなるので、あえて13種にしました。しかしここに載せた13種の他に、思いがけない種がリストに加わることもあります。台風や低気圧による迷行です。

これからは、あなたによる識別力が、埼玉県産鳥類リストをふやすことになります。しかし、わからない種があっても、図鑑に似ているからこれにしようと思わないことです。わからない種は、わからないのであり、わからないことははずかしいと思わないことです。また、図鑑に似ているからと決めつけられない方がよいこともあります。図鑑に似ているのではなく、図鑑が似ているからです。

何か最後は堅苦しくなりましたが、楽しく鳥が見られて、一種でもリストがふえればいいですね。

目撃された方は、事務局へご連絡ください。写真等の第三者でも識別できるものがあれば、県内初記録として残ります。写真等がなくとも、連絡さえいただければ、鑑識係(写真の得意な人)がうかがいます。早目の連絡を!

# 1987年春のシギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

種 類	秋ヶ瀬	大麻生・明戸	阪東大橋
コチドリ	5		6
イカルチドリ		12	6
シロチドリ			1
ムナグロ	400	47	
キョウジョシギ	3	6	
ウズラシギ	2		
ハマシギ	2		
アオアシシギ		1	
クサシギ		1	
タカブシギ	50		
キアシシギ	2		
イソシギ	2	5	2
チュウシャクシギ	12		
タンギ	14		1
ジンギSP.	1		
計 15 種	11 種	6 種	5 種

去る4月29日、春の県内一斉シギ・チドリ類調査が行なわれました。秋ヶ瀬、大麻生・明戸、阪東大橋の3か所に13名の人員を投入、結果は表のとおりです。

阪東大橋の記録はややさびしい感じもありますが、前年なみ。ただし、この場所では調査日の前後にオオソリハシギやセイタカシギが観察され、今年もツバメチドリが繁殖しています。

秋ヶ瀬、大麻生・明戸はほぼ例年どおりの結果でしたが、秋ヶ瀬では例年数羽しかカウントされないチュウシャクシギの多かった点が注目されます。

渡りのシーズンのたった一日をとらえての調査ですから、この結果だけで渡りの動向を論じられません。研究部では今後も継続して、データの蓄積を図って行く考えです。

最後に、調査に参加された皆様、及びデータを提供して下さった埼玉大野鳥研には心より御礼申し上げます。また、今後の調査に際し、ひとりでも多くの会員が参加して下さいます(特に県北が手薄なのでよろしく)。なお、次回の調査は9月15日です。

(執筆 榎本秀和)

<備考> いずれの調査地も天気は晴、風なし。観察時間は9:30～12:00。

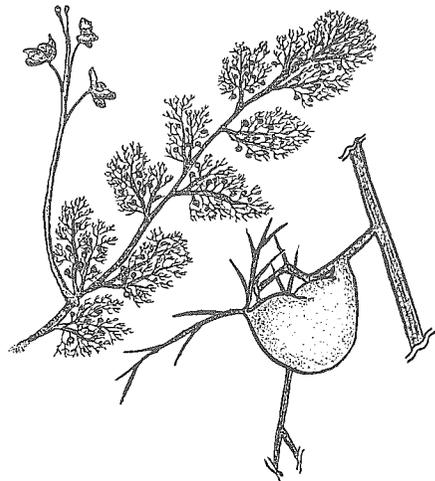
## *Utricularia japonica* Makino (タヌキモ)

野鳥に限らず、“野鳥の周囲にある自然”を再確認してはどうでしょうか。

私の場合は、“水の中の自然”に興味があって、ウキクサ・ヒシ・タヌキモ・サンショウモ等、水上・水中を見てしまいます。水面に浮いている苔ノイチョウウキゴケを県内で発見した時は、嬉しかった。デンジンソウを見たいな。

さてタヌキモ(右図)。県内でも自生地が少ない食虫植物です。最大特徴である捕虫囊は、径1～2mmで、水中の動物性微生物が弁装置状仕掛けの袋にとびこむと捕えます。

見かけた時は、じっくりと観察することをおすすめしたい。



(図と文・加藤 均)



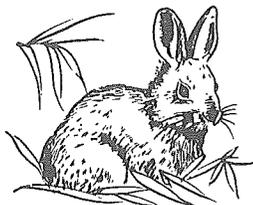
戸隠森林植物園周辺

黒田佳子 (新座市)

戸隠森林植物園は、長野駅から戸隠キャンプ場行のバスで約1時間のところにある。面積およそ71haに及ぶこの森林植物園は、動植物の宝庫といわれる戸隠の自然を十分いかした場所と言え、鳥好きの人にとってもたまらなく魅力的な場所のひとつと言えるだろう。

春先、園内の遊歩道を歩いてみると、キビタキ、ミソサザイ、コルリ等の野鳥達はその美しい歌声と姿を披露してくれる。また水芭蕉、リュウキンカ等の花々も目を楽しませてくれる。夏になると春ほど鳥は姿を現わさないが、それでもゴジュウカラ、キバシリ等が木から木へとせわしなく動きまわっている姿を見ることができる。秋の紅葉の頃もいい。

ツタウルシから紅葉しはじめ、トチノキ、カツラと順に黄色く色づいていく。園内ではマユミ、ツリバナ、サワフタギ等の植物が様々な色の実をつけ、とても美しい。鳥は10月中頃にアトリが、11月にヒレンジャク、キレンジャクがやってくる。園内から少し足をのばして天命稲荷を経て、鏡池へ向かうのも良い。鏡池から見た戸隠山の紅葉はとても美しく、たまにヒドリガモやカルガモといったお客様が来ていることもある。本当にちょっとしたハイキングには最適のコースである。機会があったら是非行ってみたい。さて冬の戸隠についてだが、残念な事に私はまだ行ったことがないのでなんとも言えないが、きっと他の季節とは違った良さがあるはずである。その良さを見つけるために、いつか冬の戸隠を訪ねてみようと思っている今日この頃である。

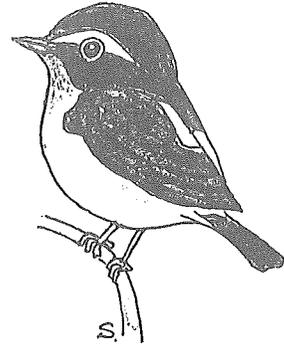


暑中お見舞

申し上げま

1987盛夏

又. 来年こそ  
みんなによろしくね!



太官 渡辺(周)司

サンコウチョウ

岡安行雄 (加須市)

森のしげみの中

月日星 ホイホイホイ

ああ 今年も来てくれた

南の国から

はるか 海をこえて

目をこらして 枝葉の中を

ひっしに探す

はずかしいのか

声ばかりで 姿はなかなか

見えない

でも 確かに

都会に残った

わずかな自然林の

どこかに とびかっているのだ

低いツツドリの声の中で

まだ早い朝のモヤのかかった

草のにおいのする中で

月日星、ホイホイホイ

かん高く鳴いている

## 野鳥情報

- オオミズナギドリ ◇ 8月1日午前7時30分、浦和市鹿手袋上空を西から東へ通過（海老原美夫）。
- アマサギ ◇ 6月30日、大宮市鴨川の関沼南側の水田に9羽。オレンジ色の飾り羽が個体により相当の差があった。青々とした田の中で、きれいだったなあ（鈴木高士）。
- チョウゲンボウ ◇ 5月30日、深谷市人見の仙元山公園上空を1羽（小淵健二）。
- コジュケイ ◇ 7月2日、浦和市高砂の平安閣の後の空地で1羽が、ゆっくりと採餌していた（海老原教子）。
- キアシシギ ◇ 7月25日午前0時45分、大宮市上小町の自宅上空を鳴きながら北西方向へ飛んで行く（鈴木高士）。
- コアジサシ ◇ 6月20日、熊谷市の三ヶ尻工業団地の貯水池で2羽（山口輝雄）。
- シラコバト ◇ 7月21日、富士見市の前沼で1羽（田中富夫）。
- カッコウ ◇ 5月30日、深谷市人見地区で1

- 羽（小淵健二）。◇ 6月30日、大宮市鴨川の関沼付近の屋敷林で1羽（鈴木高士）。
- ホトトギス ◇ 6月18日、長瀬町の宝登山で1羽（山口輝雄）。◇ 7月3日午前2時30分、大宮市上小町の自宅上空で声を聞く（鈴木高士）。◇ 7月5日、三芳町の多福寺で声を聞く（吉本富美子）。
- ヤマセミ ◇ 6月10日、日高町の武蔵横手駅近くの高麗川で♂♀各1羽（塚原恵子）。
- カワセミ ◇ 7月21日、川越新町の小畔川で♂1羽（塚原恵子）。
- オオルリ ◇ 6月28日、秩父郡両神村薄川にて♂1羽（山口輝雄）。
- コヨシキリ ◇ 6月28日、大里郡妻沼町の利根川の刀水橋上流で3羽（小淵健二）。
- エナガ ◇ 7月4日午前5時30分、川越市笠幡で50羽以上（塚原恵子）。
- コムクドリ ◇ 7月5日、浦和市の円正寺の畑のふちで♂1羽（近藤 崇）。
- ハシボソガラス（部分白化） ◇ 7月8日、大宮市の大宮開成高校付近で初列及び次列風切に帯状の白色部分のある個体が2羽（簗輪真澄）。

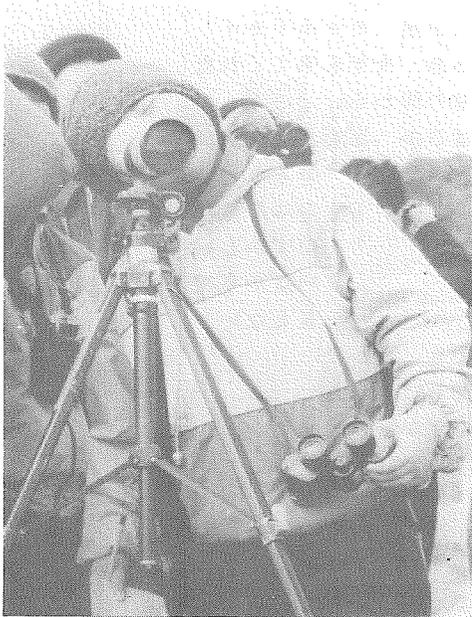
## 【9月の見どころ】

海老原美夫（浦和市）

日中は、残暑が残っていても、朝夕は涼しい風が吹き始める9月、稲を刈り終った田圃に、シギやチドリの仲間が、たくさんおりにいます。ここは、昨年、コモンシギ・フィーバーをまきおこした浦和市秋ヶ瀬の田圃です。ここそこにムナグロがいます。他にタカブシギ、チュウシャクシギも見えます。あちらには、アメリカウズラシギがいます。注意深く見て下さい。今年も何か出そうな予感がします。そうそう、ここへ来たら、ノビタキを見ることが、お忘れなく。

渡良瀬遊水池は、昨年までシギやチドリのおりにいた場所が水没してしまい、今年は見られないかもしれなく残念です。

さて、9月下旬から10月初旬にかけて、小規模ですが、県内でもサンバの渡りを見るこ



見える・・・かな

とができます。上昇気流にのりながら、南へ飛んで行く姿は、ある種のロマンを感じさせます。主な観察場所としては、寄居町の鐘撞堂山、伊奈町の小室無線山、日高町の高指無線山などがあります。サツバの渡りを見る探鳥会も用意してますので、当日、天気良くて、たくさんのタカが飛ぶことを期待して、お出かけ下さい。

同じ頃、鐘撞堂山や秋ヶ瀬のピクニックの森で、エゾビタキ、サメビタキ、コサメビタ

キの目のクリッとした、かわいい姿を見ることができでしょう。実のある木がポイントです。



カット  
渡辺 敦

## キガシラセキレイの観察

埼玉県内で初めてキガシラセキレイを観察した。キガシラセキレイは、西日本と秋田県までの日本海側で、春の渡りの時期にまれに観察されるだけに、埼玉県内はもちろん、太平洋側の東日本における観察は初めてであると思われるので、報告する。

観察場所・浦和市秋ヶ瀬排水機場

観察日時と観察者・①昭和62年4月11日(土)  
午後2時30分～3時40分(海老原美夫)



4月13日・海老原美夫撮影

表紙の写真

### キョウジョシギ(シギ科)

何も障害物のない見晴しの良い海辺で、テントを張って鳥を待っていても、かえって警戒されて、なかなか近づいてはくれない。辛抱、待つこと3時間余り、何やら後ろのほうで気配を感じたので見ると、ややハデなズンぐりした鳥がちょこちょこことせわしく、小

②4月12日(日)午前8時～8時10分(海老原美夫、海老原教子、福井恒人、手塚正義、福井亘) ③4月13日(月)午前9時～午後1時(海老原美夫) ④4月14日には発見できなかった(初野謙)

特徴点等・背は薄い茶色あるいは薄い灰色、腹は全面的に薄い黄色。ハクセキレイより小さい。尾は短い。足は黒く長い。足指のツメが長い。深い波形で飛びながら、ジッ、ジッ、と鳴く。肩斑は明瞭に耳羽をまいて胸の色と一体をなす。左右の肩斑はくちばしの上の薄色帯でつながっている。大雨覆と中雨覆の縁の白線は2本とも幅広く短い。胸に左右不对称の濃色斑があり、顎線状の線が若干認められる。

以上の特徴を総合して、キガシラセキレイの若鳥であると判断した。本部の野鳥記録委員会においても、7月25日になって、これはキガシラセキレイの1年目の冬羽であるとの判断が示されたので、遅くなったがここに報告するわけである。

石や泥をひっくり返しながら近づいてくるではないか。急いでシャッターを切ったあと図鑑で調べると、これがキョウジョシギであった。漢字で京女鶉、粋な名である。

(写真と文・小川寿一)



### 鳩山町・物見山探鳥会

期日：9月6日（日）

集合：午前8時30分 東武東上線高坂駅前

交通：東武東上線朝霞台7：49発→川越8：08発→高坂8：29着／川越線大宮7：35発→川越7：54着、東上線乗り換え、以下上に同じ

解散：正午ごろ

担当：海老原美夫

見どころ：初秋の山歩きに行きませんか。まだまだ残暑が厳しい時期ですが、足下を見れば、可憐な秋の花。林の小鳥達にも何となく落ち着きのない様子が見られます。

### 神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：9月12日（土）

集合：午前9時30分 京浜急行大師線小島新田駅前

交通：品川駅より京浜急行線乗車、約20分で京浜川崎着、大師線に乗り換え、約10分で小島新田着

解散：午後2時ごろ

担当：中島康夫、楠見邦博、横山みどり

見どころ：シギ・チドリの渡りの最盛期。この時期、東京湾の干潟では、10数種類のシギ・チドリが一度に楽しめます。特に日頃お目にかかる機会の少ない海浜性の彼らを充分に見てきましょう。思わぬ迷鳥の姿も見られるかも。

9月。渡りのドラマ。長旅途中に水辺で憩うシギ・チドリ。華麗な山の夏鳥達が里に立ち寄っていきます。そして青空高く渡っていく鷹の群れ。大きな感動の待つ探鳥会へ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）双眼鏡などです。

参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

### 熊谷市・大麻生探鳥会

期日：9月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着／秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着

解散：午後1時ごろ

担当：鈴木忠雄、今井明巨

見どころ：秋風の吹く河原を散歩してみませんか（I）。水辺にシギやチドリの涼しげな声が溢れ、草地にはそろそろノビタキの可愛い姿も見られるところです。

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月20日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

共催：浦和市立郷土博物館（参加費無料）

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司

見どころ：渡り鳥のちょっとした中継地がここ三室。ツツドリ、エゾビタキ、コムクドリにシギ・チなどを探しましょう。



探鳥会へ  
どうぞ!!

### 寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日(祝)  
集合：午前9時 寄居駅北口  
交通：東武東上線川越7：38発→森林公園乗り継ぎ→寄居8：45着 / 秩父鉄道熊谷8：30発→寄居8：58着  
解散：午後2時ごろ  
担当：田村照治、萩原正二、新井清子  
見どころ：天高く渡るサシバの群れ(Ⅰ)。

9月下旬、県内ではサシバなどの鷹の渡りが最盛期を迎えます。山頂で見る鷹柱はもちろんですが、息を切らせて登る山道でも上空御注意。木立の狭い切れ目を一瞬で横切る雄姿も見落とさせぬように。

### 伊奈町・小室無線山探鳥会

期日：9月27日(日)  
集合：午前9時 ニューシャトル志久駅前  
交通：ニューシャトル大宮8：30発に乗車  
解散：午後1時ごろ  
担当：榎本秀和  
見どころ：天高く渡るサシバの群れ(Ⅱ)。

秋の長雨もあがり、抜けるような青空を、鷹が舞います。南の島への遙かな旅を前に、森に毎年翼を休めていくサシバの群れです。遠い南の島に思いを馳せつつ、壮大な渡りのドラマを心の底まで満喫してきましょう。

### 本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月27日(日)  
集合：午前9時 本庄駅北口  
交通：高崎線大宮7：44発→熊谷8：25発→本庄8：49着  
解散：午後1時ごろ  
担当：北川慎一、萩原正二  
見どころ：秋風の吹く河原を散歩してみませんか(Ⅱ)。夏の間、強い日差しに泣かされた河原ももうすっかり秋。のどかでどこか寂しげなシギやチドリのはいかげですか。ノビタキのつぶらな瞳もきっと待っているでしょう。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月26日(土) 午後1時～3時ごろ  
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階第2講座室(浦和駅西口から県庁通りを西進、中山道を左折して約600m右側)  
案内：賑やかに交わされるお喋りの中には、今月も耳寄りな話が一杯?

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：9月26日(土) 午後3時ごろ～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ  
案内：写真などわからない、と言う方も是非どうぞ。今まで知らなかった鳥の楽しみ方が開けます。もちろん常連の方も。



### 熊谷市・大麻生探鳥会

期日：10月11日(日)  
集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着 / 秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着  
解散：午後1時ごろ  
担当：鈴木忠雄、今井明巨  
見どころ：秋風の吹く河原を散歩してみませんか(Ⅲ)。南へ渡る夏鳥の姿もこのあたりが見納め。そしてそろそろ気の早い冬鳥の顔ぶれも見えるころです。

10月18日(日) 浦和市・三室地区探鳥会  
10月25日(日) 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会  
11月1日(日) 富士見市・柳瀬川探鳥会  
吉見町・吉見百穴探鳥会  
11月3日(祝) 川口市・差間探鳥会  
(カット=鈴木加代子、鈴木高士)

# 行事報告

## 7月5日(日) 三芳町 多福寺

雨のため中止となったが、集まった方々を案内して、お目当てのサンコウチュウだけは十分に見てもらった。

## 7月11日(土) 坂戸市 高麗川

人 20人 天気 曇 鳥 カイツブリ  
 ゴイサギ ササゴイ コサギ カルガモ コ  
 ジュケイ キジ バン イカルチドリ イソ  
 シギ キジバト カッコウ カワセミ ツバ  
 メ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ  
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシ  
 キリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ  
 スズメ オナガ ハシボソガラス ハシブト  
 ガラス(29種) 暑い一日。汗をふきふきの探  
 鳥会。高麗川も水不足でほとんど流れが止ま  
 っていた。鳥の数は少ないと思ったが、鳥合  
 わせを行った結果は29種。やはり高麗川はい  
 い所だ。カルガモの親子連れ(子が10羽)も  
 見られたし、カワセミは、何回も登場してく  
 れた。でも、ヤマセミは本日は休演とのこと  
 でした。鎌倉からの参加者もいたのですが。

## 7月12日(日) 川本町 大麻生・明戸

人 14人 天気 雨後曇 鳥 カイツブ  
 リ ササゴイ コサギ カルガモ オオタカ  
 コジュケイ バン コチドリ イカルチドリ  
 イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ  
 カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ セ  
 グロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス  
 オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒ  
 ワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガ  
 ラス ハシブトガラス(30種) 雨にもかかわ  
 らず明戸駅に熱心な野鳥ファンが集まった。  
 この熱意に応えたようにオオタカが現われて  
 くれた。昼食は、コアジサシのダイビングを  
 見ながら。解散後に川本町菅沼でアオバズク

を観察した。

## 7月19日(日) 浦和市 三室地区

人 37人 天気 雨 鳥 カルガモ コ  
 チドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバ  
 メ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキ  
 レイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッ  
 カ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ  
 スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス  
 ハシブトガラス(21種) 戻り梅雨の雨の中、  
 大勢の参加者があった。それに應えるように、  
 芝川で先月は現われなかったカルガモの親子  
 が一列縦隊の泳ぎを見せてくれた。オオヨシ  
 キリは柄にも似合わず小声で鳴いていたが、  
 セッカは元気一杯舞い上がっていた。天に向  
 かってさえずっといたホオジロは、雨粒が口  
 の中にきっと入っただろうに、人間のよう  
 にむせたりしないのは立派なものだ。涼しい雨  
 中の散歩をのんびり楽しんでいたが、早目に  
 切り上げてスライドで室内探鳥会に移ること  
 になり、少し心を残して見沼田圃を後にした。

## 7月25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 吉本富美子、吉田二三  
 子、藤野富代、福井 亘、登坂久雄、佐藤晶  
 人、加藤 均、小川寿一、海老原美夫、海老  
 原教子、榎本秀和、岩波勇一、浅沼源太郎、  
 青沼俊雄、以上14人。

『しらこぼと』袋づめの会もこれで早くも  
 5回目。毎回参加して黙々と、あるいはにぎ  
 やかに作業を続ける常連さんがいます。時々  
 手伝ってくれる人もいます。今回初めて参加  
 してくれた人もすぐ作業にも会話にもとけこ  
 んで、皆さん御苦労さま。今月も無事『しら  
 こぼと』を会員の皆さんのお手元にお送りす  
 ることができました。(今回は気分を変えて、  
 お名前、50音順の逆に並べてみました。)



『しらこぼと』袋づめ作業

### 7月25日(土) 写真クラブ定例会

**作品発表した人** 吉本富美子、登坂久雄、小川寿一、海老原美夫、以上4人。

『しらこぼと』袋づめの作業が終わった後は、お茶を飲んで、差し入れのお菓子や葡萄なんかを食べて、スライドを見ながら、サンコウチョウ、ツミ、アオバズクの繁殖情報をおしゃべりしたり、聞いたり。そのとき聞いた情報で早速翌日アオバズクの撮影に出かけた方、次回定例会での発表をお待ちしていますよ。鳥ばかりではありません。草花、昆虫か

ら水中写真まで、いろいろ楽しめる会でした。

### 7月26日(日) 初級シギ・チドリ類識別講座

**人** 42人 本部総務部長で、識別の第一人者である園部浩一郎氏を講師に迎えて開かれた。資料によるシギ・チドリ類のわかりやすい説明は、非常に好評で、スライドによる実際の識別も楽しいものであった。参加者も当初の30名の予定をオーバーして42名と盛会であった。その他質疑応答、楽しい語りもあり、次回の「ワシ・タカ講座」への希望も出た。席を移して開かれた二次会も盛況だった。



熱気あふれるシギ・チドリ類識別講座

## 参加者の声

### 川本町大麻生・明戸探鳥会

渡辺 敦(熊谷市)

「猛禽、猛禽が飛んでいる。」

誰かが叫ぶ。指で示す方向に鴉たちに囲まれつつも悠然と舞う鳥1羽。皆がその鳥を追う。しかし対岸の林の上すれすれを飛ぶ鳥は、間もなく消えた。いや、正確に言うならば消えたように私の目に映った。リーダー代理であった私は、先頭を進んでいた。これが失敗だった。500mほど進み、後方からの声に振り返る。

「蒼鷹が木に止まっている。」

先頭集団は私を含め5人。はるか後方に望遠鏡をのぞきこむ姿が目にはいる。私は自分の存在理由を忘れ、小走りでそこへ向かう。余談ではあるが、こんなことを被捕食者がしたならば捕食者はそれを見逃さないだろう。

蒼鷹を見ている集団に到着すると彼らはこの言葉を私にかけて来た。

「飛んで行っちゃった。」

この時の悔しさは鳥を楽しむ人なら一度は経験したことがあるのではなからうか。この9文字は単に状況を述べたものではない(時として、この言葉を発する人には単なる状況を述べると言うこともある)。言葉を発した者は残念だったねとか、その反対の意味(下品な言葉だし鳥見人はこの語を使わないと思われるので書かないことにする)を含んでいるし、聞いた者は、悔しいとか、悲しい(ただしこのような意は、飛んだのが好ましいものであることに限る)という意味を含む。国語学をやっているようになってきた。そろそろやめにしよう。

この日、蒼鷹のように一部の方の目にしかとまらなかつた鳥は、他に翡翠、笹五位であった。今度は、きっと……。

## 連絡帳



### 秋のシギ・チドリ類調査

9月15日(祝)、研究部の担当で、秋のシギ・チドリ類調査を実施します。

本庄市阪東大橋下流、熊谷市大麻生、浦和市大久保農耕地(秋ヶ瀬)の3か所で、朝から、三脚かついだへんな人たちが、カウンターをカチャカチャやったり、ムナグロが何羽、タンギが何羽、お、あれは何だ、なんて、毎年この時期に見られる光景を展開します。

あなたも、へんな人たちの仲間に入ってみませんか。識別に自信がなくても、何が何羽いたか、人に言われたことを記録する係でも良いのです。りっぱにあなたはへんな人たちの一員になれます。

事務局までご連絡ください。

### ごぞんじてすか自然情報コーナー

全国にちらばる自然情報レポーターが本部に送ってくる情報にもとづいて、本部では自然情報マップを完成させると同時に、新聞、テレビ、ラジオなどでも紹介しています。テレビ、ラジオの自然情報コーナーは次のとおりです。

NHKテレビ 月 11:40~11:55「暮しの情報」

NHKラジオ 木 9:05~9:30「ふれあいラジオセンター」

文化放送 月~金 6:50「アイリス野鳥情報」  
土 6:30「アイリスネイチャーレポート」

題字『しらこぼと』=山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8) 渡辺周司(p10)

### ご寄付ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。  
笠井実 20,000円 紀平輝子 1,000円 秩父愛鳥会 10,000円 鳥光てる 3,000円 乗田実 3,000円 (50音順、敬称略)

### 会員数は

8月20日現在 765人です。

### 活動報告

7月13日 『しらこぼと』8月号の原稿を印刷所へ(山部直喜)。

7月19日 編集部会議(9月号と10月号について)。普及部会議(12月までの行事について)。役員会議(司会・森本國夫、各部の報告、タカの渡り調査、シギ・チ調査について、12月までの探鳥会、嶋田忠講演会、『しらこぼと』7月号から1,000部に増部について、探鳥会用チェックリストについて、その他)。

7月21日 『しらこぼと』8月号の校正作業(大武昭雄、西城戸司、森本國夫の3人で。大武さんは、3月号と5月号のよびかけにこたえてくれた方です)。

7月27日 『しらこぼと』8月号発送。

7月28日 埼玉新聞記者、嶋田忠講演会取材。

7月29日 役員会の記録を各役員に発送(記録・渡辺周司、発送・事務局)。



ある森林公園の水場近くの繁みのなかで、ブラインドをかぶって、「私は木。私は岩」をやっていたら、目が寄っちゃいそうな近くで、キビタキ、クロツグミ、コルリ、アカハラが羽づくろいなどを見せてくれました。

帰ってきたら、支部報の原稿書きが待っていました。(海老原美夫)

『しらこぼと』1987年9月号(第40号) 定価 100円(会費に含まれます)  
発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎0488(32)4062  
〒336埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130  
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断りします)